

平27
中

国

1

5

〔注意〕

答えはすべて、解答用紙の定められたところに記入しなさい。

本文には、問題作成のための省略や表記の変更があります。

〔一〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

歴史は「語られる」ものだということを述べてきました。よく考えてみると、さらに、歴史は「あとから」語られるものだ、ということができません。つまり、どうしても、「いま」の視点で、「いま」の考え方によって過去がとらえられてしまうということなんです。①「あと出しじゃんけん」みたいなものなんです。歴史というのは。

そのあとどうなったのか、わかっているところから、歴史は語られます。逆に言うと、「いま」から逃げられないのです。このことは、歴史を考えるときの注意点です。

たとえば、高度経済成長の時代を語るとき、私たちが生きている「いま」がどんなかたちで持ちこまれているのか、そこまで思いを巡らせてみるのが、「歴史とは何か」を考えることなんです。『ALWAYS 三丁目の夕日』は、高度経済成長の時代を、みんな貧しいけれども助け合って生きていた、まだ町内のまとまりがあった、人が温かかった、みんなが夢をもっていた時代として描きました。しかし、それは②不況の「いま」を見てしまったからではないのか、ということなんです。別の言い方をすると、たとえば永山則夫という人を登場させてみると、まったくちがった高度経済成長の歴史が見えてくるということです。

もちろん、高度経済成長の時代を「暗い」「汚い」時代として語れと言っているわけではありません。ある視点から語ったときに、何か見えなくなっているものがある、隠されてしまうものがあるということに気がつくこと。そのことが頭にあるのとないのとは、歴史への姿勢はまったく異なるものになるということを知っておいてほしいのです。

さて、歴史の語り方にどうしても「いま」が入りこんでしまうということは、同じ対象であっても、時代によって評価がちがってくるということを意味します。

評価が、「いま」の変化によって、「転三転していくわけです。みごとに、そのときどきの「いま」というものによって、振り回されていますね。

でも、このことこそが歴史というもののなんです。

③ 過去を過去のまま、冷凍保存して眺めるのが歴史であり、それが理想であると思うかもしれませんが、歴史とはそういうものではありません。第一、そんなことは、そもそも不可能です。

自分たちが生きている「いま」をどう考えるか、という視線が過去に向かい、そのとき、必然的に、過去を「いま」と結びつけて考えること。このことこそが歴史ということになります。

(成田 龍一『戦後日本史の考え方・学び方』による)

〔注〕『ALWAYS 三丁目の夕日』は二〇〇五年に公開された映画。

永山則夫は高度経済成長期に中学を卒業して上京し、職を転々とした後、連続ピストル射殺事件を起こした。

問一 ―― ①『あと出しじゃんけん』みたいなもの」とありますが、どういうことですか。適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 歴史の語り手は、自分が語る歴史の結末を知っているので、聞き手に対して常に優位に立っているということ。
イ 歴史の語り手は、常に現在から振り返って語るのので、語る内容もそうした捉え方に沿うものになるということ。
ウ 歴史の語り手は、現在のものの見方の影響を受けるので、現代の読者に受け入れてもらいやすいということ。
エ 歴史の語り手は、客観的に過去を把握できるので、過去の時代の良い点を選んで語ることができるということ。
オ 歴史の語り手は、常にその時点の最新の知識を用いるので、過去の人よりも正しい歴史を語れるということ。

問二 ―― ②「不況の『いま』を見てしまったから」とありますが、なぜ「不況の『いま』を見ると、過去をそのように描くのですか。自分の考えを書きなさい。

問三 ―― ③「過去を過去のまま、冷凍保存して眺める」とありますが、どういうことですか。

問四 筆者の考えに沿っているものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 高度経済成長の時代は、皆が助け合った良い時代ではあったが、まだ貧しく、社会を騒がせる事件もあった。
イ 歴史を特定の視点から語るとかたよったものの見方におちいるので、そのような語り方はさけるべきである。
ウ 過去と「いま」を結びつけるとは、過去の歴史を正しく受け止めた上で、今後のあるべき姿を考えることだ。
エ 歴史が特定の立場から語られることが多いことを理解して、どれが妥当な歴史なのかを見極める姿勢が大切だ。
オ 歴史について考えることは、現在の自分がどのような視点を持っているのかを考えることにつながっている。

② 次の文章は、アリスが、兄から借りた鳥の本を学校に置き忘れた友人の蜜蜂や、蜜蜂の飼犬である耳丸と一緒に歩いている場面です。読んで、後の問いに答えなさい。

今夜のスカラ座通りには、人かげがなかった。スカラ座でもよおしものがないときは、たいていこんなふうだ。公園のなかにたつ（あ）ハンキユウの屋根のたてものが、森のなかの天文台のようにしずまっている。

スカラ座通りの両がわには、まるいあかりをともした街灯がならび、さわるとおじぎをする草のように、①真下を通りかかるときに、いちいち首をうなだれる。（い）ジツサイには、はじめからすこしまがったボールのさきに、電灯がとりつけてあるだけなのだ。見あげる角度の問題だった。

道はまっすぐで、まんべんなくてりかえす月あかりがまぶしい。公園のなかをスカラ座を背にしてすすめば、学校へゆく近道になった。アリスと蜜蜂を追いかけて、耳丸がかけだした。リードをつけていないからだ。

「蜜蜂、どうして耳丸をつれてきたのさ。」

「勝手についてきたんだよ。ぼくはひとり家ででたのに。」

② アリスはふきだした。蜜蜂はいつもこうだ。怖がりなのに、平気なふりをする。だから、兄にもからかわれるのだ。「きみのにいきんのしわざだよ。」

蜜蜂は困りはてた顔をした。

「にいきんが、なんだって？」

「わからない？ 耳丸はきみのにいきんが、そとへだしたんだ。」

「どうしてさ？」蜜蜂は口をとがらせた。

「蜜蜂のことを、心配して。」

「まさか。鳥の本をとってこいといったのはにいきんだよ。」

③ だからさ、アリスが言いかけたのを蜜蜂がさえぎって、

「それなら、はじめからとりにいけなんていわなければいいんだ。ぼくはわざと耳丸をつれないでそとへでたのさ。」怒っている。

意地をはってひとり家ででる弟と、そっけなく送りだすふりをする兄。アリスは、そんな兄弟のようすをたやすく思い浮かべることができた。兄は気づかれないようにこっそり二階の窓からそとをうかがっている。弟が耳丸を連れてゆくものときめていた。弟もまた、兄が見ているのを知っている。だから、わざと耳丸には見むきもせず家を出たのだ。兄があとから耳丸をはなすことを（う）キタイして。

「なにがおかしいんだ？」

蜜蜂は（え）フマンをつのらせた。耳丸は街灯のポールをひとつひとつかぎまわっている。

④ 蜜蜂のにいきんはすごいね、と、アリスは笑いをこらえていった。

「耳丸がぼくの家へかならずよるのを、計算してのことなんだから。」

アリスの家はスカラ座通りのちかくだった。耳丸は、かつて一度もここを素通りしたことがない。蜜蜂の兄は、アリスがこの冒険にくわわることを見こして、蜜蜂をけしかけたのだ。

安全装置をたくさん（お）ジュンビしてたくらみをはかる兄と、からかわれつつも兄を慕っている弟を思うにつけ、アリスは自分に兄弟のないことを、つまらなくかんじた。

平 27 中
国
4
5

〈注〉リードII飼い犬などの散歩の時に用いるひも。

問一 ——— ①「真下を通りかかるときに、いちいち首をうなだれる」とありますが、どういうことですか。

問二 ——— ②「アリスはふきだした」とありますが、なぜふきだしたのですか。

問三 ——— ③「だからさ、」とありますが、アリスがここで言いかけた内容として、適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 蜜蜂の兄は、強情な弟を馬鹿にしただけで、まさか本当に夜の学校に行くとは思っていなかったということ。
- イ 蜜蜂の兄は、自分の本を学校に置き忘れた弟の今後のためにも、心配しつつも厳しく接していたということ。
- ウ 蜜蜂の兄は、自分の予想に反して弟が一人で出かけてしまったので、内心申し訳なく思っていたということ。
- エ 蜜蜂の兄は、弟が自分のからかいを真に受けたとしても、一人で学校に行かせるつもりはなかったということ。
- オ 蜜蜂の兄は、臆病な弟に一人で夜道を歩かせるのが不安だったので、事前にアリスに相談していたということ。

問四 ——— ④「蜜蜂のにいさんはすごいね、」とありますが、アリスは、蜜蜂の兄のどういうところがすごいと思ったのですか。

問五 ——— (あ) (お) のカタカナを漢字に直しなさい。

平 27
中
国
—
5
—
5

三 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

なれ

アーサー・ピナード

1 上着をぬいでハンガーにかける。
2 なにごともなかったかのように
3 上着は針金のハンガーに
4 自分をあわせる。
5 が、袖のあたりが
6 なんともさびしい。
7 上着をきこんで出かける。
8 さも、ずっといっしょだった
9 みたいに、上着はぼくを
10 むかえ入れてつつむ。
11 が、衿のうしろのほうに
12 しこりが、のこっている、
13 肩のあたりにも。
14 横断歩道でまっているあいだ
15 ぼくは自分を
16 少しハンガーに
17 にせようとする。
18 上着はそれに
19 気づかぬふりをしながら
20 きげんをなおす。

問一 第5〜6行目について、次の二つの問いに答えなさい。

- (1) この時の上着の袖はどういう状態ですか。
- (2) この時の上着はなぜ「さびしい」気持ちになったのですか。

問二 第11〜13行目で、上着はどのような気持ちですか。

問三 第14〜17行目で、「ぼく」は上着に対してどのような態度でいますか。

三			
問三	問二	問一	
		(2)	(1)

三				
問五	問四	問三	問二	問一
(あ)				
(い)				
(う)				
(え)				
(お)				

三			
問四	問三	問二	問一

解
答
用
紙

評点

平27 — 中
国

受験番号
氏名